

大会申し合わせ事項

1. 大会適用規則

本年度公認野球規則、競技者必携に定める規則及び本取り決め事項を適用して行う。

2. 競技運営に関する注意事項

- (1) 監督会議で説明または決められた事項は、必ずチーム全員に徹底すること。
- (2) 会場に到着後速やかに打順表 4 通を本部に提出し、登録原簿と照合の後、球審立ち会いのもと攻守を決定する。
第 1 試合 : 試合開始予定時刻の 30 分前まで
第 2 試合以降 : 前の試合の 3 回終了時または試合開始後 60 分経過時のいずれか早い方
前の試合が早く終了した場合は、次の試合を試合開始予定時刻前に開始する**場合がある**。
打順表へは、登録された選手全員を記入し、氏名欄の右端へは学年(数字)を記すこと。なお、女子選手は背番号数字を丸で囲うこと。
- (3) 攻守決定の時に、試合で使用する捕手用ファウルカップ、サングラスを持参し審判による点検を受けること。またテーピング等を必要とする選手がいる場合、その選手を同伴して申告を行うこと。
- (4) 参加登録書提出後の選手の変更・追加・背番号の変更は認めない。ただし、疾病・負傷等の特別な場合は、資格審査の上、認めることもある。
- (5) ベンチに入れる人員は、登録されユニフォームを着用した監督 30 番、コーチ 29 番・28 番および選手 25 名以内と、チーム責任者、スコアラー、マネージャー、トレーナー等(有資格者)各 1 名とする。ただし、監督、コーチは 20 歳以上でなければならない。熱中症対策として、保護者 2 名までベンチに入ることができる。
- (6) ベンチは組合せ番号の若いチームを 1 塁側とする。ただし、1 チームが 2 試合続けて行う場合はベンチの入れ替えをしないことがある。
- (7) 守備時間が長い場合(概ね 20 分)には健康維持を考慮し、審判員の判断で給水タイムを設けることとする。(試合時間に入れる。)
- (8) 指名打者制(DH 制)を採用することができる。(但し、「大谷ルール」は適用しない。) 攻守決定前に提出される打順表に明示すること。(試合途中での採用はできない。)

3. 大会特別規定

- (1) 試合は **6 回戦**とするが、規定時間 90 分を過ぎたら新しいイニングには入らない。
ただし、負傷治療に要した時間は試合時間に算入しないこととする。
- (2) 5 回終了もしくは規定時間が経過したらゲームは成立する。
- (3) 得点差によるコールドゲームは、3 回以降 10 点差、5 回以降 7 点差とする。
- (4) 6 回もしくは規定時間を完了して同点の場合は、タイブレーク方式とする。タイブレーク方式は、無死一・二塁・継続打順で行う。(前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者とする。)
- (5) タイブレーク方式で 2 回を完了しても決着がつかない時は、抽選で勝敗を決定する。ただし、決勝戦の場合は、勝敗が決するまでタイブレーク方式を続行する。(投手の投球制限を遵守のこと。)
- (6) 暗黒、降雨などで正式試合の成立前に中止になった場合、また正式試合が成立したが同点で試合が中止の場合は、翌日(または後日)に特別継続試合を行う。正式試合が成立しない場合は、打ち切りになったところから試合を行うが、正式試合が成立した場合は、コールドゲームが適用される。ただし、決勝戦は再試合とする。
特別継続試合においては、投球数は元の試合で投じた球数を引継ぎ残りの球数のみ、試合時間についても残りの試合時間のみで行うものとする。

(7) 選手の肘・肩の障害予防として、1人の投手が1日に投球できる数は下記の取り扱いとする。この投球数制限は、選手が安全に安心して健康で野球を楽しむことを目的としている。

また、ダブルヘッダーを行う場合やタイブレークとなった場合は1日に投球できる投球数以内であれば引き続き投球することができる。

- ① 1日の投球数は70球以内(4年生以下60球以内)とする。
- ② 試合中規定投球数に達した場合、その打者の打撃中に攻守交代となるか打撃を完了するまで投球できる。
- ③ ポークにもかかわらず投球したものは、投球数に数える。
- ④ タイブレークになった場合、1日の規定投球数以内で投球できる。
- ⑤ 牽制球や送球とみなされるものは投球数としない。
- ⑥ 投球数の管理は、大会本部が行う。

(8) 監督が1試合に投手の所へ行ける回数は3回以内とする。なお、タイブレークは、1インングに1回とする。

(9) 捕手または内野手が、1試合に投手のもとへ行ける回数は3回以内とする。なお、タイブレークとなった場合は、1インングに1回行くことが出来る。野手(捕手も含む)が投手の所へ行った場合、そこへ監督が行けば、双方1回として数える。逆の場合も同様とするが投手交代の場合は、監督のみ回数には含まない。

(10) 攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。なお、タイブレークは、1インングに1回とする

(11) 攻守決定後、グラウンド内のブルペンで先発バッテリーに限り投球練習をすることができる。捕手はマスク、スロートガード、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガーズ、ファウルカップを着用すること。

監督またはコーチ1名がグラブを持ち配置し危険防止を図る。(試合中の投球練習時と同様。)

(12) **試合前のシートノックは行わない。グラウンド内でサイドノック・素振り等のバットを使用する練習は認めるが、チーム関係者は安全に十分留意すること。補助員は必ずヘルメットを着用すること。**

(13) ベンチ内での電子機器類(携帯電話、パソコン等)、携帯マイク及びカメラ・ビデオの持ち込みを禁止するが、電子スコア記録用として(パソコン等)一台の持ち込み・使用を認める。指示用のメガホンはベンチ内に限り1個の使用を認める。

(14) 選手、監督、コーチはユニフォーム、アンダーシャツ等、全員同形・同色のものを使用すること。代表者、スコアラー、マネージャーはスポーツに相応しい服装とするが、ユニフォームを着用する場合はチームと同一の服装(ユニフォーム、アンダーシャツ等)とし、ユニフォームの上着は監督・コーチと区別できるようにすること。

(15) ファウルボールは、1塁側のものは1塁側ベンチ、3塁側のものは3塁側ベンチ、本塁後方のものは攻撃側で処理する。ボールパーソン、バットパーソンはヘルメット着用のこと。

(16) 試合終了後、対戦した両チームの監督・コーチ・チームスタッフはグラウンド整備に協力すること。

(17) 楽器等、鳴り物での応援は行わない。また、ウイツツひばり球場以外ではメガホン等での応援を行わない。

4. 使用球

大会使用球は、全日本軟式野球連盟公認球J号とする。

5. 試合のスピード化・マナーに関する事項

(1) 試合はスピーディに運ぶよう努める。試合の進行状況によっては、タイムを制限することもある。

(2) 各回の先頭打者と次打者、ベースコーチは、ミーティングには参加せず、直ちに所定の位置につくこと。

(3) 打者は、速やかに打者席に入り打撃姿勢をとること。また、打者席内でサインを見ること。

(4) 試合中スパイクの紐を意図的に結び直すためのタイムは認めない。

(5) ファウルボールが打たれたとき、走者は駆け足で元の塁に戻り触れること。

(6) 投手の準備投球は、初回5球、次回以降は3球とする。

(7) 攻守交代時に控え選手がベンチを出て守備練習を見守ることおよび、投手の準備投球に合わせて素振りをするのを禁止する。

(8) ベンチ内の大人がいかなる状況であっても、選手を萎縮させるような言動を禁止する。